

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十主日礼拝のしおり

2021年8月1日

前奏：

招きのことば：詩編 78 編:23-25,29,37-38 節

それでもなお、神は上から雲に命じ 天の扉を開き彼らの上にマナを降らせ、
食べさせてくださった。

神は天からの穀物をお与えになり 人は力ある方のパンを食べた。

神は食べ飽きるほどの糧を送られた…彼らは食べて飽き足りた。

神は彼らの欲望を満たしてくださった…

彼らの心は神に対して確かに定まらず その契約に忠実ではなかった。

しかし、神は憐れみ深く、罪を贖われる。

彼らを滅ぼすことなく、繰り返し怒りを静め 憤りを尽くされることはなかった。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、あなたの御言葉をいただいて一週間を始めます。あなたはいのちのパンであるイエス様をわたしたちに与えてくださいます。イエス様によって私たちのすべての罪を赦し、永遠に続くいのちに満たしてください。新しい一週間も日々の生活の現場で私たちを安心と喜びに導き、あらゆる災いから守り、隣人の力になるように鍛え用いてくださいます。新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：エペソの信徒への手紙 4章 1-16節

そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのもの内におられます。しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています。そこで、「高い所に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、人々に賜物を分け与えられた」と言われています。「昇った」というのですから、低い所、地上に降りておられたのではないのでしょうか。この降りて来られた方が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも更に高く昇られたのです。そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。こうして、わたしたちは、もはや未熟な者ではなくなり、人々を誤りに導こうとする悪賢い人間の、風のように変わりやすい教えに、もてあそばれたり、引き回されたりすることなく、むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのおの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 6章 24-35節

群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないと知ると、自分たちもそれらの小舟に乗り、イエスを捜し求めてカファルナウムに来た。そして、湖の向こう岸でイエスを見つけると、「ラビ、いつ、ここにおいでになったのですか」と言った。イエスは答えて言われた。「はっきりしておく。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹し

たからだ。朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。父である神が、人の子を認証されたからである。」そこで彼らが、「神の業を行うためには、何をしたらよいでしょうか」と言うと、イエスは答えて言われた。「神がお遣わしになった者を信じること、それが神の業である。」そこで、彼らは言った。「それでは、わたしたちが見てあなたを信じることができるように、どんなしるしを行ってくださいますか。どのようなことをしてくださいますか。わたしたちの先祖は、荒野でマンナを食べました。『天からのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです。」すると、イエスは言われた。「はっきり言うておく。モーセが天からのパンをあなたがたに与えたのではなく、わたしの父が天からのまことのパンをお与えになる。神のパンは、天から降って来て、世に命を与えるものである。」そこで、彼らが、「主よ、そのパンをいつもわたしたちにください」と言うと、イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。

讚美歌 514 番

1. 弱き者よ 我にすべて 任せよやと 主はのたもう
 ※主によりて 贖(あがな)わる わが身の幸(さち)は みな主にあり
2. 岩のごとく かたき心 砕くものは み力のみ ※
3. 我に何の いさおし あらん ただ主の血に きよくせらる ※
4. 死の床より 起くるその日 勇み歌わん 主のみいさお ※ アーメン

説教：「わたしが命のパンである」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様は「わたしがいのちのパンである」と言われました。これほどはっきりイエス様ご自分を信じる幸せをお語りになったことがあるでしょうか。わたしがいのちのパンを与える、と言わず、わたしがいのちのパンである、と言われました。イエス様を信じたらご褒美としていのちのパンが与えられる、というのではなく、イエス様を信じるのが幸せであるということです。イエス様が永遠のいのちに至る食べ物です。私たちはイエス様のもとに来て、イエス様を食べ、イエス様を信じます。決して人としての飢え乾きで悩むことはないのです。

どんな人々がこのイエス様の言葉を聞いたのでしょうか。イエス様を必死で捜した人々です。少し背景をお話ししますと、先週のお話にあったように、イエス様は都エルサレムからガリラヤ湖ともティベリアス湖ともいわれる北の地方の活動拠点に退かれて、さらにいつもおられたところから向こう岸に行っておられました。そこにイエス様を慕って五千世帯もの人々が集まってきました。イエス様は彼らにお話しをなさいましたが、時間もたって空腹になった群衆に

ひとりの少年の持っていた五つのパンと二匹の魚を感謝して割いて弟子たちに渡して配りました。群衆の皆が満腹になったうえに、弟子たちは残りを籠に集めました。群衆はそんなイエス様を王としようとして連れて行こうとしたので、イエス様はそれを避けて山に退き、弟子たちは別行動をして舟で湖をわたりました。そこで弟子たちは嵐に会いました。恐れて困り果てているところにイエス様は湖の上を歩いて近づかれ、わたした、恐れることはない、と言われ、波を静められました。イエス様におなか一杯満たされた人々は家に帰り、一部始終を身近な人々に話していたようです。聞いた人の中には翌日ティベリウスから湖を渡ってイエス様を捜しに来た人たちがいました。また、イエス様を王様にしたと思った人々は山に退いたはずのイエス様が夜のうちに湖を渡られたのを知らず、翌朝まで捜していました。人々はイエス様を捜したのです。そこにはイエス様も弟子たちもいないことに気付いてみんなで舟で湖をこちら側にわたり、ついにカフェルナウムという町でイエス様を見つけたのです。

ついにイエス様を探し当てた人々が、イエス様にいつここにおいでになったのですか、と尋ねるとイエス様は一步先の会話をなさいます。パンを食べて満腹したからわたしを捜しているのだね。そんなわたしを王様にしたら食べ物に困らないと思ったのか。確かにおいしい食べ物がいつも豊かにあるのは人生に大切なことだけれど、満腹だったのにまたおなかはずいってくる。だからなくなる、永遠のいのちに至る食べ物のために働きなさい、と言われました。

イエス様のもとに来た人々は自分たちがおなかを満たして下さるイエス様に王になってほしいと考えていたことを見抜かれました。かつてイスラエルの民が奴隷になっていたエジプトの地から解放されて、荒野をさまよって食べるものに困ったとき、モーセという指導者が神様に祈って天からパンのような食べ物を降らせてもらったことがありました。イエス様が王様になってくれたら、モーセの時代のように必要な食べ物をいただけたらと考えたのかもしれませんが。しかしイエス様は、食べたらなくなるパンではなくて、いつまでもなくなる永遠のいのちを与えて下さると言われたのです。

私たちにも日々の祈りがあります。家庭がうまくいくこと、勉強や仕事がうまくいくこと、友達関係がうまくいくこと、適度な気分転換ができて、飲み食いや住むところ着るものに不自由なく、健康に生きていきたいと願います。関心はそこにあります。そのために時間もお金も使います。そのために祈ります。しかしイエス様はそれらは大切なものではあってもいつか朽ちていくこと、それらはいつか過ぎ去っていくことで、それらはわたしたちが生きていく目的ではないことを気づかせてくださいます。むしろ衣食住や健康というものは、永遠のいのちというそれらを超えた神様の贈り物を人として生きる環境であることに気付かせてくださいます。

もし、家庭が守られ、いろいろな災いから守られて、商売が繁盛し、豊かな収穫を得ても、そのうえでそれらを私たちがわがままに生きていくための手段とするならなんとむなしいことでしょうか。実際にこれらすべてものを豊かに得ている人々には、なおもむなしく、何か足りないと感じている人がいます。むしろこれらのことは人生の目的ではなく、神様のお与えくださ

る永遠の命を世にあって生きていく手段なのです。イエス様はご自分を捜しあてた人々に、この大切なことを気づかせてくださいました。

彼らは尋ねました。神様のわざを行うために何をしたらよいのでしょうか。イエス様は、神様がお遣わしになった方を信じるのが神様のわざです、と答えられました。神様がお遣わしになった方、とはイエス様ご自身のことです。人々は何をすればいいか、と尋ねています。しかし神様のわざは私たちがする何かではなく、私たちがイエス様を信じることは神様のわざだとおっしゃったのです。

人々が考えたことは、私たちが何かを一生懸命にすれば、それも神様と人々のために役立つことを一生懸命すればよい人生を送ることができるということでした。それで胃袋だけではなく心が、魂が満たされるようになる、と思ったのです。たしかに自分を鍛えて、自分中心な思いやわがままな考えを捨てて、神様のために、人のために役立つことはすばらしいことです。完全にできなくても、そのために日々努力すること、人々からも褒められるようになるし、少しずつできていくこともあって、それらを励みにして強い心になることが幸せな人生と思います。しかし、自分を律する努力に陶醉することは楽しく、自己満足求めて励むことはそのときの自分の満足になるかもしれませんが、それさえも一時的なものではないでしょうか。決まりを守り、愛に生きようと努力することは美しく見えます。しかし厳しいようですがその動機はあくまで自己満足です。イエス様は努力によって自己陶醉や自己満足の度合いを挙げることができる人の力で何とかなるような行いは、胃袋だけの幸せとさほどかわらない、過ぎ去るもの、なくなるものと言われるのです。尊いものですが朽ちていくものです。

ではイエス様を信じるのが神様のみわざというのはどういうことでしょうか。人々はモーセが天からマンナというパンのようなものを降らせたように、イエス様にも何かイエス様を信じることができる明らかなみわざや証拠を与えて下さったらすぐにも信じることができます、と答えました。人々は条件を整えば自分にもイエス様を信じることができる、と考えていました。イエス様は天からパンを降らせたのはモーセではなくて天の父なる神様であるとお答えになり、いのちを与えたのはモーセではなく、神様がふらせたいのちのパンの方だと言われました。人々はそのパンをください！と詰め寄ると、イエス様はそれがわたしたち、わたしがいのちのパンである、といわれました。

イエス様は天から父なる神様が私たちが養うために降らせた、遣わされたいのちのパンです。イエス様は私たちの自己陶醉や自己満足では到底得られない本当のよいわざをしてくださいました。また私たちが自己流のよいわざに気を取られて結局は自己中心なものであることをご存じて神さまから心離れている罪深い私たちのために十字架にかかって死んでくださって神様のみ前ですべての罪を償ってくださいました。民がパンをたべて満足したように、私たちはいのちのパンであるイエス様にあずかって永遠のいのちをいただくのです。洗礼によってイエス様のしてくださったことを私たちは着せていただきます。私たちがイエス様にあつて罪赦され、

永遠のいのちにみなぎるために、イエス様は歴史のまっただなかに、人々の来てくださったのです。今日は聖餐式でそのイエス様のまことの血とまことのからだにあずかります。神様がお遣わしくくださったイエス様に信頼することは、神様がわたしたちのうちになしてくださる神様のみわざです。荒野のような人生のなかで、永遠に朽ちることのないいのちのパンをいただくのです。イエス様をいただくのです。

イエス様をいただき、神様のみまえで罪赦されて永遠のいのちにあずかる私たちの考えるスケールをはるかにこえた神様のみわざが、今日もあなたに実現します。永遠のいのちにあずかって、この世の歩みは整えられます。むなしなもの、過ぎ去っていくことを目的にしたり最終的な価値をおいて悲壮感漂う、運に左右されたギャンブルのような当てもののような毎日ではなく、神さまに愛され、赦され、何があってもイエス様に信頼できる幸せを味わいながら、世にあって神様にいただいた使命に生きる喜びに溢れます。

弟子たちが五千世帯の人々にイエス様のさいたパンを運び、満腹した残りを十二の籠いっぱい集めたように、私たちはイエス様の祝福によって人々からの見返りではなく人々に持ち運んだ祝福の残りをたくさん集めさせていただきます。私たちは人々の思いにいちいち左右されず、出来事に一喜一憂せず、いのちのパンであるイエス様をいただいて神様の子どもとされま。世にあってはどんなことがあってもすべての手段を備え整えて下さる神様に信頼して安心し、自らは人々からの感謝や栄光のためにではなく人々のために神様の祝福を持ち運んで生きていきます。なんと深みのある豊かな生涯でしょうか。イエス様を信じる歩みは世にあってあなたを深い喜びと確信に導き、人々のまごころにふれていく歩みです。神様はこのイエス様を信じる信仰を神様の責任においてあなたに与えてくださいます。

イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。ヨハネ 6:35

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあつて我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあつて我らは生きる。※

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン。

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。アーメン

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。アーメン

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあって我らは歩む。 ※

讃美歌：494 番 献金 献金感謝の祈り

1. わが行く道 いついかに なるべきかは つゆ知らねど 主はみこころ なしたまわん

※そなたもう 主の道を 踏みて行かん ひとすじに

2. 心 たけく たゆまざれ 人は変わり 世はうつれど 主はみこころ なしたまわん ※

3. 荒海(あらうみ)をも うち開き 砂原にも マナをふらせ 主はみこころ なしたまわん ※

アーメン

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの 恵みよ 父の愛よ 御霊の力よ ああみ栄えよ アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。アーメン

後奏